

平成31年度
一関修紅高等学校一般入学試験問題

第1時限

(1月23日 8:50～9:40)

国語

(注 意)

- 1 「始めなさい。」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 答えは、必ず解答用紙の「答」の欄に記入しなさい。問題用紙に書いても無効です。
- 3 答えは、記号・文字・言葉・文などで書くようになっていますから、問題をよく読んで、定められたとおりに書きなさい。
- 4 書き誤りをしたときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。はっきりしない答えを書いた場合は、誤りとされます。
- 5 解答用紙の※印の欄（得点の欄）には記入してはいけません。
- 6 時間内に書き終わっても、その場に着席していなさい。
- 7 「やめなさい。」の指示があったら、直ちに書くのをやめ、筆記具を置きなさい。
- 8 問題用紙は、表紙を含めないので14ページで、問題は6題です。

「本文までのあらすじ」

郷里の町を離れ都会暮らしをしている咲子は、仲の良かった又従妹の瑞穂の結婚式のために帰省する。実家に着いた咲子は、母親から着物を着るように言われたのを断って、自分で準備したワンピースに着替え、踵かかとの高い靴を履いて、瑞穂の家に向かう。瑞穂の家では慌ただしく婚禮の準備が行われていたが、身支度を手伝っていた親戚のおばちゃんが瑞穂に履かせる足袋がないことに気付く。咲子はおばちゃんの代わりに、高澤商店に足袋を買いに行く。

あの頃、足袋は小学生の憧れだった。このあたりの足の速い小学生は、運動会のここぞという競技には足袋を履いて走った。運動靴ではなく、裸足はだしでもない、足袋で走るのが最も速く走る方法だと信じられていた。しかし、足袋は試金石でもあった。足袋を履いた子が転んだり追い抜かれたりすると容赦なく笑われる。速くもないせにカッコつけて足袋など履いて、という失笑だ。だから、足袋を履く子には自負があった。履くからには必ず勝つつもりでなければならなかった。足の速い家系だったのだろう。私も瑞穂も毎回リレーの選手に選ばれた。そしてふたりで意気揚々とここへ足袋を買いにきた。今考えると不思議だ。私はともかく、はにかみ屋の瑞穂が足袋を履くことを選んだのだから。運動会の日、足袋を履いてスタートラインに並んだ瑞穂はいつもとは別人のように凛々りんげんしく、恰好がよかったのを覚えている。

「おばさんも全然変わらんのですね」

お愛想をいったつもりだったが、おばさんはかすかに笑っただけだった。

「咲子さんは変わったわなあ。いわれなんだからわからなかった」

「変わりましたか、私」

② おばさんは慌てて首を振り、二組の足袋を紙袋に入れながら、

「なまなま、すっかり大人になって、そりゃ変わるわねえ。はい、三千円です、毎度おおきに」

おばさんが慌てなかったなら、大人になって垢抜あかぬけた、きれいになった、くらいの意味に調子よく取っていたに違いない。でも、なんだろう、私は何かもう少し違う意味で変わったのらしい。紙袋を抱えて店を出る、硝子戸に取りつけられた鈴がちりんと鳴ってポチがひわんとお義理のように吠えた。

来た道を戻りながら、何が変わっただろうかと考える。変わって悪いか、とも思う。なにしろ高澤商店へ来ていた時分の私は小学生だったのだ。おばさんが知っていた私と今の私とは変わっていて当然だ。何も私が悪いわけじゃない——そう考えた自分に首を捻ひねりたくなる。どうして私が悪いことになるのか、もしくは自分でもどこかで何かを間違えたと思っっているから些細ささいなひとことが気になるのか、わからないまま歩く。

ともかく、早く帰ろう、瑞穂が待っている。そう思って足を速めようとしたときだった。雪を避けたつもりでの左足のヒールがぬかるみを踏んだ。滑りそうになり、慌てて出した右足の置きどころも悪かったらしい。何より注しピンヒールがいけなかった。あっと思ったときにはバランスを崩し、どすんと尻もちをついていた。痛みより恥ずかしさが先に立ち、とっさに身を起こして辺りを窺うかがった。前にも後ろにも人はいない。ほっとしたのと同時に、お尻と足元が大変なことになっているのに気がついた。ワンピースのお尻からじわじわと冷たさが染み込んでくる。お尻をおそる手で触ってみると、泥でぐちゃぐちゃだ。踏み固められた道とはいえ、雪が混じれば泥だまりができる。そこを踏んで転んだのだ。それから、靴。確かめる前からわかっていて、脱げて無残に転がっている。ヒールが折れている。直るだろうか、と持ち上げてみたけれど、たぶん無理だ。皮も破けてしまっている。

はああ、と吐いたため息が軽い。意外に平気だ。こんなところで派手に転んでヒールを折り、

泥だらけですわっている自分がおかしくさえある。小さなバッグを拾い、転んでも離さなかった足袋の袋を持ち替え、折れたヒールを持ち、なんとか立ち上がる。歩き出そうとして、また転びそうになる。靴というのはヒールが壊れたら歩けなくなるものらしい。さらに一步、試しに踏み出してみて、あきらめた。いや、あきらめちゃいけない。早く瑞穂の家に戻らなくては。私は――私が買って帰る足袋は――待たれているのだ。

とりあえず電話して、とバッグに手を伸ばしてから気がついた。携帯に瑞穂の番号が入っていない。瑞穂どころか、この町には誰ひとりとして私の携帯に登録されている人はいなかった。実家にかけてたこともなかったのだ。けー、けきよ。鶯が鳴いた。私は足袋とヒールとバッグを持って両手をだらんと下げて、澄んだ空を見上げる。

なんだか、やっぱり、少し間違った場所にいるみたいだ。踵のない靴で立ちつくしたまま、ぼんやりと自分の間違いについて思う。この町のこと、この町に住む家族のこと、切り捨ててきた。それなのに、都合のいいときだけつながろうとしている。かべかべに生きていきたいくせに、観光で訪れた田舎町では老犬の頭を撫でてみたりするように。

バッグから携帯を取り出した。とりあえず実家の父母に窮状を話し、誰かに迎えに来てもらう。足袋だけでも届けてもらわなければ瑞穂が困る。お願いだからつながって、と祈るような気持ちで実家の番号を押す。――だめだ、出ない。呼び出し音が鳴るばかりだ。どこへ行ったんだろう、と考えてはつとずする。きっと花嫁の家へ出発したに違いない。もうそんな時間になっているのだ。どうしよう。どうすればいいんだろう。

答えは、ひとつだった。走るしかない。私が走って届けるしかないではないか。

覚悟を決め、靴を脱ぐ。それを両手に持ち、おそろおそろ足を前に出してみる。痛い。足の裏が痛くて、とても走るどころじゃない。花嫁の支度のためなら少々の痛みは我慢しなくてはと思うのだが、地面は冷たく、小石も混じっている。気持ちだけ走ってすぐに歩き、また走ってまたすぐ歩き、せめて靴下でも履いていればずいぶん違ったのになあと思ったときだった。不意に思いついた。思い出した、というべきか。足袋を持っているじゃないか。

持っていた靴とヒールを道の脇に置き、買ったばかりの袋を開ける。サイズの大きいほうの足袋を取り出す。これを履けば、走れるだろうか。足袋の力を借りたとしても、いつのまにか体力をなくしてしまった私が走れるとは思えない。だけど、それでも、今走らなくてどうする。何のための韋駄天^(注2)か。ただ自分を鼓舞するためだけに私は道端で白い足袋を履く。足元からびりつとした緊張感が上ってきて、走ろう、走れる、という気持ちになっている。

田んぼの中を通る太い一本道を、白い足袋を履いて走り出す。思うようには足が前に出て行かない。それでも、なんとか走れるみたいだ。糊^(注1)の利いた足袋が走る気持ちを守り立ててくれるのがわかる。気持ちが変わるから走れるのか、走るから気持ちが変わるのか。ついさっき来た道なのに風景まで違って見える。匂いを感じる。土の、草の。雪の、水の。空の、風の。足袋を履いて誇らしげに走った小学生の頃の自分が、ふつとよみがえったような気がした。

(宮下奈都「白い足袋」による)

(注1) ピンヒール……ピンのように細い女性の靴のかかと。

(注2) 韋駄天……足の速い人。

(1) 傍線部① 試金石 とありますが、この言葉の意味はどれですか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 自分の能力を引き出してくれる手段。 イ 自分の力量が計られる基準。
ウ 将来を決める大切な試験。 エ 実現するためになくてはならない材料。

(2) 傍線部② おばさんは慌てて首を振り とありますが、このとき「おばさん」が慌てた理由は何ですか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 咲子の外見ばかりではなく、郷里にいた頃とはどこかが大きく変化したような印象を受けたから。
イ 昔ながらの暮らしをしているおばさんには、咲子のように変化していくことに嫌悪感があつたから。
ウ 子どもの頃から大きく変わってしまった咲子の姿に驚き、昔の面影を失ったことが残念だったから。
エ 咲子の外見はすっかり大人びてきれいになったが、子どもの頃の面影は変わらないままだったから。

(3) 傍線部③ 私は足袋とヒールとバッグを持った両手をだらんと下げて、澄んだ空を見上げる とありますが、ここから「咲子」のどのような思いが読みとれますか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 困ったときにどうすることもできない自身に無力感を抱きながら、自分のいる場所はやはり不便な田舎ではなかったと後悔する思い。
イ 小学生だった頃に高澤商店のおばさんなど周りの大人たちにかわいがられ、田舎の自然の中で無我夢中で遊んでいた暮らしを懐かしむ思い。
ウ 足袋を買うために歩いたわずかな距離に疲れ果ててしまった自分の体力の衰えに愕然とし、今の生活のすべてを投げ捨ててしまいたいという思い。
エ 自ら田舎の退屈な生活を捨て都会暮らしを選んだはずなのに、そのことが逆に誰も頼れる人を失ってしまったことに茫然としていている思い。

(4) 傍線部④ 窮状 とありますが、咲子はどのような「窮状」に陥ったのですか。次の [] に当てはまる言葉を二十字以内で書きなさい。(4点)

泥だまりで足をすべらせ、その拍子に履いていた靴のヒールが折れて歩けなくなったため、
瑞穂に [] こと。

(5) 傍線部⑤ 田んぼの中を通る太い一本道を、白い足袋を履いて走り出すとありますが、このときの咲子はどのような気持ちで走り出したのですか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

(5点)

- ア 仲良しで、運動会ではライバルでもあった瑞穂の結婚式のためなら、自分の足がどうなっても構わないという気持ち。
- イ 足袋が汚れたとしても、田舎の町の人たちはきっと自分の誠意を受け入れてくれるだろうという気持ち。
- ウ 小学生の頃に持っていた自負心や誇りを思い起こし、都会生活の中で失ったものを取り戻そうとする気持ち。
- エ 足袋を履いて歩くことでくじけそうな自分を奮い立たせ、孤独な都会の中でも生き続ける力を得ようとする気持ち。

「人は一人では生きていけない」

皆さんは先生やご両親から、よくこうした言葉を聞かされたことはありませんか。テレビドラマなどでもこんなセリフをよく耳にします。「たしかにそうだな、人間一人では生きていけないな」とこの言葉に素直に納得する人もいるかもしれませんが。でも反対に「ホントにそうかな。なんかしっくりこないな。人はじつは一人でだって十分生きていけるんじゃないかな」と思う人だっているでしょう。

皆さんはどう思われるでしょうか。

この問いに関する答えの傾向としては、こんな予想が立てられます。^①年齢が上になればなるほど、そして暮らしている場所が地方であればあるほど、「人は一人では生きていられない」と答える可能性が高い。そして若い年代でしかも都会暮らしであればあるほど、「案外人間は一人で生きていけるのではないか」と答える割合が多いのではないかと。もちろん都会暮らしの若者すべてが「一人で生きていられる」と考えるわけではないでしょう。しかし全体的にはこうした傾向が見られるのではないかと思われる。

人と人との「つながり」の問題を考える最初の出发点として、人は本当に一人では生きていられないのか、それとも、まあそれなりに生きていけるのかといった問いを立ててみましょう。

かつて日本には「ムラ社会」という言葉でよく表現されるような地域共同体が存在していました。「ご近所の人の顔と名前はぜんぶわかる」といった集落がそれですね。これは、何も地方の農村や漁村だけに限ったことではなく、東京のような都会にだってあったのです。『ALWAYS 三丁目の夕日』——映画ですから描き方にはフィクションの要素も多分に入っているとはいえないように、近所に住む住人同士の関係が非常に濃密な「ご町内」が、昭和四〇年くらいまでの日本には確かにありました。

そんな「ムラ社会」が確固として存在した昔であれば、これは明らかに「一人では生きていけない」ということは厳然とした事実でした。

なにより、食料や衣類をはじめ、生活に必要な物資を調達するためにも、仕事に就くにしても、いろいろな人たちの手を借りなければいけなかったからです。こうした、物理的に一人では生活できない時代は長く続きました。だから村の交際から締め出されてしまう「村八分」というペナルティは、わりと最近まで死活問題だったわけですね。

ところが近代社会になってきて、貨幣(＝お金)というものが、より生活を^②媒介する手段として浸透していくと、極端な話お金さえあれば、生きるために必要なサービスはだいたい享受できるようになりました。

とりわけ、今はコンビニなど二十四時間営業の店も増え、思い立った時にいつでも生活必需品は手に入られるし、ネットショッピングと宅配を使えば、部屋から一歩も出ずにあらゆるサービスを受けることも可能になっています。働くにしても、仕事の種類によってはメールとファックスで全部済んでしまう場合だってあります。

このように、一人で生きていても昔のように困ることはありません。生き方としては、^③「誰とも付き合わず、一人で生きる」ことも選択可能なのです。

ある意味で、「人は一人では生きていけない」というこれまでの前提がもはや成立しない状況は現実には生じているといえるのです。

A、こうした現代的状況を目の前にして私が言いたいのは、「だから、一人でも生きていけるんだよ」ということではありません。みんなバラバラに自分の欲望のおもむくままに勝手に生きていきましようといったことでもありません。「一人でも生きていくことができても社会だから、人とつながることが昔より複雑で難しいのは当たり前だし、人とのつながりが本当の意味で大切になってきている」ということが言いたいのです。つながりの問題は、こうした観点か

ら考え直したほうがよさそうです。

今の私たちは、お金さえあれば一人でも生きていける社会に生きています。

〔B〕「普通の人間の直感として「そうは言っても、一人はさびしいな」という感覚がありますね。本当に世捨て人のような生活が理想だという人もいないわけではありませんが、たいてい、飯にどんなに孤独癖の強い人でも、まったくの一人ぼっちではさびしいと感ずるものです。

ではなぜ一人ではさびしいのでしょうか。やはり親しい人、心から安心できる人と交流したい、誰かとつながりを保ちたい。そのことが、人間の幸せのひとつの大きな柱を作っているからです。だからほとんどの人が友だちがほしいし、家庭の幸せを求めているわけです。

あの人と付き合うと便利だとか便利じゃないとか、得だとか損だとかいった、そういった利得の側面で人がつながっている面もたしかにあるけれども、しかし人と人とのつながりはそれだけではないわけです。

〔C〕「人は一人でも生きていけるか」という問いに対する私の答えは、「現代社会において基本的に人間は経済的条件と身体的条件がそろえば、一人で生きていくことも不可能ではない。しかし、大丈夫、一人で生きていけると思ひ込んでいても、人はどこかで必ず他の人々とのつながりを求めがちになるだろう」です。

(菅野仁「友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える」による)

(1) 空欄〔A〕〔C〕に入る接続詞の組み合わせとして最も適当なものはどれですか。次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア A でも B だから C さて イ A つまり B そして C では
ウ A さて B でも C だから エ A そして B では C つまり

(2) 傍線部① 年齢が上になればなるほど、そして暮らしている場所が地方であればあるほど、「人は一人では生きていられない」と答える可能性が高いとありますが、作者がどのように考えたのはなぜですか。「ムラ社会」という言葉を用いて、六十字以内で書きなさい。(5点)

(3) 傍線部② 媒介の「介」と異なる意味で使われているものはどれですか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 仲介 イ 厄介 ウ 紹介 エ 介在

(4) 傍線部③ 「誰とも付き合わず、一人で生きる」ことも選択可能なのですとありますが、これを別の表現で言い換えている部分を、三十八字で本文中から抜き出し、最初の六字を書きなさい。(4点)

(5) 本文の内容として合致しているものはどれですか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

(5点)

ア 現代の人たちは、お金さえあれば一人で生きていくことも可能だが、様々な幸せを求める上で必ず他の人々とのつながりを求めている。

イ 人がさびしさを感じることは、幸せを求めているからであって、利便さや損得といった利得の側面を求めているわけではない。

ウ 現代的状況を踏まえると、人とつながることが昔より複雑で難しいのは当たり前だからこそ、一人で生きていくことが本当の意味で大切になってきている。

エ 年齢が上がり、住む地域が都会から地方へと行くほど「一人でも生きていける」と答える可能性が高いのは、ネットの普及によるものである。

3

次の詩とその鑑賞文を読んで、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

(15点)

草原の夜

金子みすゞ

ひるまは牛がそこにいて、
青草たべていたところ。

夜ふけて、

月のひかりがあるいてる。

月のひかりのさわるとき、
草はすすすとまた伸びる。
あしたも御馳走してやろと。

ひるま子供がそこにいて、
お花をつんでいたところ。

夜ふけて、

天使がひとりあるいてる。

天使の足のふむところ、
かわりの花がまたひらく、

② 子供に見せようと。

(「日本語を味わう名詩入門2」による)

〈鑑賞文〉

牛が青草を食べるのは、生きるためです。しかし、青草のほうから考えると、せっかくここまでのびたのに、
③ 「 」
と、思ってもいいのです。それなのに、「草はすすすとまた伸びる。／あしたも御馳走してやろと。」と思うのです。それは、美しい月の光にさわられたからです。月の光は、「のびて、明日も牛に御馳走してやりなさい」とはいいません。ただ美しい光を青草に投げかけただけです。(一部抜粋)

(萩原昌好による)

(1) 傍線部① 月のひかりがあるいてる とありますが、これと同じ表現の技法が用いられているものとして、**最も適当なもの**はどれですか。次のア～エから**一つ**選び、その記号を書きなさい。

(3点)

ア 輝く星々が眼前に迫った、幼い頃に真っ暗な夜道で。
イ 自然は宝であり、未来に残していくべきものである。
ウ まるで熱い風呂に入っているかのような暑さが続く。
エ 怒り狂った空が雷を落とし、そして大雨を降らした。

(2) 詩の中の②には、どのような言葉が入りますか。あてはまる言葉を詩の中から、そのまま抜き出して書きなさい。

(3点)

(3) 鑑賞文中の③には、どのような言葉が入りますか。次のア～エから**最も適当なもの**を**一つ**選び、その記号を書きなさい。

(4点)

ア もう少しのびてから食べてよ
イ 負けずにもっとのびてやる
ウ もう決してのびないぞ
エ 月の光のせいで食べられた

(4) この詩の鑑賞文に続く文として、**最も適当なもの**はどれですか。次のア～エから**一つ**選び、その記号を書きなさい。

(5点)

ア 青草は牛に食べられ、花も子供につままれてしまいましたが、月の光や天使に出合って、また違う青草が伸び、お花が開くのです。『よき別れはよき出会いを生む』のです。私たちがまた、別れは出会いの始まりと考え別れ方を大事にしたいのです。

イ 青草も花も、月の光や天使に出合って、嬉しい方へ、優しい方へと心が動いたのです。『美しい行為は美しい行為を呼ぶ』のです。青草や花と同じく、私たちがまた、美しい行為に出合ったとき、嬉しい気持ちや、優しい気持ちになれるのです。

ウ 牛や青草やお花たち、そして月の光も生き活きしているから、子供たちも生きがいを見つけたくましく成長していけるのです。『豊かな自然を守るのは人間である』のです。私たちが自然を大切にすることで天使にも喜んでもらえるのです。

エ 青草も花も、月の光や天使に出合って励まされ、そして勇気をもらうことで心が動いたので、誰かの教えがあって我々は生きられる』のです。青草や花と同じく、私たちがまた、誰かの教えによって、やる気や勇気が生まれてくるのです。

次の文章を読んで、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

(15点)

今は昔、安陪仲磨あへのなかまろといふ人ありけり。遣唐使けんとうしとして物を習はしめむがために、かの国に渡りけり。
さかさまのことを習わせるために

あまたの年を経て、え返り来ざりけるに、またこの国より××(注)といふ人、遣唐使として行ききた長年、遣唐使として行ったのであるが、

りけるが、返り来たりけるに伴ひて返りなむとて、明州といふ所の海のほとりにて、かの国の人その人の帰国に伴つて帰るうとして

うまのはなむけしけるに、夜になりて月のいみじく明かりけるを見て、はかなきことにつけても、
月がこども明るく照っているのを見て、 何かにつけて、

この国のこと思ひいでられつつ、恋しく悲しく思ひければ、この国なごの方を詠めて、かくなむ読みける、
この国の方を眺めて、 このように詠んだ。

あまのはらふりさけみれば春日なる三笠の山にいでし月かも
遠く空のあなたを仰ぎ見ると

と云ひてなむ泣きける。

〔「今昔物語集」による〕

(注) ××……人名であるが不明である。

- (1) 波線部 この国 とはこの国のことですか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア インド イ 中国 ウ ベトナム エ 日本

- (2) 傍線部① え返り来ざりける の現代語訳として最も適当なものはどれですか。次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア 帰って来られた
イ すぐに帰ることができた
ウ 帰って来ることができなかった
エ やつとので帰って来られた

- (3) 傍線部② うまのはなむけしける とはどういうことですか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 送別の宴を催してくれた イ 旅の吉凶を占ってくれた
ウ 馬を花で飾ってくれた エ 旅のための馬を用意してくれた

- (4) 安陪仲磨はどういう気持ちで「あまのはら…」の歌を詠みましたか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

ア 長い留学を終えて母国に帰るのを見送りに来た友人に対する感謝の気持ち。
イ 月が明るく照っているので日本のことが思い出され、恋しく悲しくなった気持ち。
ウ 母国に残してきた恋人に再会できる喜びが心の底からこみ上げてくる気持ち。
エ 帰国は船旅なので暴風雨を心配し、安全を月に祈願しようとする気持ち。

ある中学校の体育祭実行委員会で「体育祭における組み体操について」というテーマで話し合いが行われました。組み体操を取り入れるべきかどうかを決めるのが目的です。その際に、**〈資料〉**「朝日新聞の投稿（要旨）」を皆で読みました。この**〈資料〉**と**〈話し合いの様子〉**を読んで、あとの(1)～(2)の問いに答えなさい。(11点)

〈資料〉「朝日新聞の投稿（要旨）」

危険な組み体操なぜ行うのか

元高校教員 X 氏（東京都 81）

体育祭や運動会での組み体操の安全性をめぐって論議が続いています。危険と隣り合わせで、事故も起きています。危険を内包した競技を、なぜ学校は行うのか。

教育的価値として一体感や達成感を挙げ、忍耐力や協調性、集中力を養うという主張もあります。しかし、父母などに見てもらおうための「ショー」的な側面はないのでしょうか。生徒の意見を聞きながら、どうするか検討して欲しいものです。

危険だからと安直にやめないで

無職 Y 氏（愛知県 65）

他校より上でありたい、保護者から高い評価を得たいという教育者の欲が組み体操を危険にしてみましたと思います。ただし、安直にやめてしまうことには反対です。

組み体操は、体を触れ合わせ、互いの息遣いを感じ、頑張る気持ちが芽生えます。下の段で踏ん張る仲間の背中どこに足を置けば痛くならないかを気にしながら取り組みます。声を掛け合いながらの「一体感」「達成感」はダンスでは得られません。

〈話し合いの様子〉

司会

それでは、今から「体育祭における組み体操について」というテーマで話し合いを始めます。まず、配布された**〈資料〉**には何が書かれていましたか。

Aさん

〈資料〉X氏の意見は、**①**性が高いことを問題視し、組み体操をやらない方向での再検討を望んでいます。

Bさん

〈資料〉Y氏は、**①**性があることは認めつつ、組み体操の利点を挙げながら簡単にやめてしまうことには反対しています。

司会

ありがとうございます。これらの**〈資料〉**を参考に、自由に意見を述べてください。全国的に人間ピラミットやタワーなどで骨折事故が多発していると聞きます。組み体操を取り入れるべきではないと思います。組み体操の利点として一体感や達成感が得られるとありますが、それは文化祭などでも得ることができるのではないのでしょうか。

Dさん

確かに、一体感や達成感を得ることは組み体操でなくても可能かもしれません。しかし、身体の使い方やバランス感覚を養う体力づくりとしての効果は大きいと思うので、組み体操を取り入れるべきだと思います。

司会

組み体操について賛否の意見が出されましたが、他に意見はありますか。

Eさん

組み体操は、相手を思いやる気持ちを育てる良い点があるので賛成です。そこで、

②

(1) ① にあてはまる言葉を、〈資料〉の中からそのまま抜き出して書きなさい。

(3点)

(2) ② には、組み体操に反対する意見を持つ人にも賛同を得られるような組み体操のあり方がEさんによって述べられました。そのあり方を**具体的に**考えて、**五十字以上六十字以内**で書きなさい。

(8点)

6

次の(1)～(10)の傍線部について、漢字の場合は正しい読みをひらがなで書き、カタカナの場合はそれにあたる漢字をかい書で正しく書きなさい。

(2点×10)

- (1) お盆の帰省ラッシュで高速道路の車の流れが滞る。
- (2) 文化祭のクラス展示に知恵を出し合って工夫を凝らす。
- (3) 天皇や皇后の住む御殿・皇居のことを内裏と言う。
- (4) 彼は笑顔と柔和な性格で皆に親しまれた。
- (5) 一朝一夕に物事を成し遂げることはできない。
- (6) 電車内で席をユズった高校生がお年寄りに感謝される。
- (7) 二〇二〇年には五十六年ぶりの東京オリンピックがヒカえている。
- (8) バレー部の活躍が市のホームページにケイサイされた。
- (9) 憲法改正の是非はシンチョウウに議論を重ねる必要がある。
- (10) 古典や歴史を学ぶ楽しみの一つはオンコチシンである。